

## 2 紛らわしい品詞の識別

ある

### ① 動詞

例 机の上に辞書がある。

### ② 補助動詞

\* 「て＋ある」、「で＋ある」の形になる。

例 机の上に辞書が置いてある。

これは古語辞典である。

### ③ 連体詞

\* 物事をはっきりそれと示さずに漠然と表す。

例 ある本屋でこの辞書を買った。

ない

### ① 打ち消しの助動詞

\* 「ない」を「ぬ」に置き換えることができる。

例 僕は辞書をあまり使わない。(あまり使わぬ)

### ② 形容詞

例 机の上に辞書がない。

### ③ 形容詞の一部

例 この辞書は古いので、きたない。

\* ②・③の「ない」は「ぬ」に置き換えることができない。

### ④ 補助形容詞

\* 上に「は・も」を入れて文意が通る。「て＋ない」、「で＋ない」の形になるものが多い。

例 これは古語辞典でない。(これは古語辞典ではない)

例 この辞書はよくない。(この辞書はよくはない)

この單元では、入試の品詞の識別の問題でよく出題される語の識別の仕方を勉強します。



だ

### ① 形容動詞の終止形の活用語尾

\* 「だ」を「な」に置き換えて体言に続く。

例 彼は元気だ。(彼は元気な少年だ)

### ② 断定の助動詞

\* 「名詞＋だ」、「の(体言代用の格助詞)＋だ」の形になる。意味的に「こうである」とはっきりと言いつけることができる。

例 それは先生の辞書だ。その辞書は先生のだ。

### ③ 過去などを表す助動詞「た」が濁ったもの

\* 「い(イ音便)＋だ」、「ん(撥音便)＋だ」の形になる。

例 去年の夏は海で泳いだ。去年の夏は海で遊んだ。

### ④ 助動詞「そうだ」・「ようだ」の終止形の一部

\* 「そう＋だ」、「よう＋だ」の形になる。

例 彼は合格したそうだ。彼は合格したようだ。

で

### ① 形容動詞の連用形の活用語尾

\* すぐ上に「とても」を補って文意が通る。

例 彼は元気で、活発だ。(彼はとても元気で、活発だ)

### ② 断定の助動詞「だ」の連用形

\* 「名詞＋で」、「の(体言代用の格助詞)＋で」の形になることが多く、「で＋ある(補助動詞)」、「で(は)＋ない(補助形容詞)」などのように補助用言が連なる形、中止法的な形になる。意味的に「こうである」とはっきりと言いつけることができる。

例 これが僕の辞書で、これが弟のである。(僕の辞書だ・弟のだ)

\* 「そう＋で」、「よう＋で」の形になる。

例 合格したそうです、おめでとうございます。

### ③ 助動詞「そうだ」・「ようだ」の連用形の一部

例 合格したようで、よかったですね。

例 合格したようです。

例 合格したようで、よかったですね。



④ 格助詞

\* 「名詞＋で」、「の(体言代用の格助詞)＋で」の形になることが多い。  
その文節が連用修飾語になる。

例 自転車<sup>で</sup>通学する。(手段) 家で勉強する。(場所)

⑤ 接続助詞「て」が濁ったもの

\* 「い(イ音便)＋で」、「ん(撥音便)＋で」の形になり、次のことばにつなげる形、補助用言をあとに続ける形になる。

例 よく読んで、理解した。 マンガばかり読んでいる。

に

① 形容動詞の連用形の活用語尾

\* すぐ上に「とても」を補って文意が通る。

例 彼は元気になった。(彼はとても元気になった)

② 助動詞「そうだ・ようだ」の連用形の一部

\* 「そう＋に」、「よう＋に」の形になる。

例 うまくいきそうに思う。 うまくいくように思う。

③ 格助詞

\* 「名詞＋に」、「の(体言代用の格助詞)＋に」の形になることが多い。

例 毎朝七時に起きる。(時間) 勉強をしに行く。(目的)

④ 「ただちに・すでに・まさに」などの副詞の一部

例 準備が済んだら、ただちに<sup>に</sup>出発する。

な

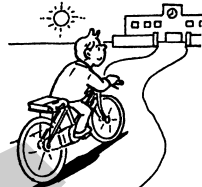
① 形容動詞の連体形の活用語尾

\* すぐ上に「とても」を補って文意が通る。

例 彼は元気な少年だ。(彼はとても元気な少年だ)

② 断定の助動詞「だ」の連体形

\* 「名詞＋な」、「の(体言代用の格助詞)＋な」の形になることが多く、「の・のに・ので」が連なる。



例 先生の辞書<sup>な</sup>ので、大事に扱おう。

例 この辞書は先生の<sup>な</sup>のに、汚してしまった。

③ 助動詞「そうだ・ようだ」の連体形の一部

\* 「そう＋な」、「よう＋な」の形になる。

例 うまくいきそう<sup>な</sup>な予感がする。 うまくいったよう<sup>な</sup>な気がする。

④ 「大きな・小さな・おかしな」などの連体詞の一部

例 彼女は大きな<sup>な</sup>家に住んでいる。

⑤ 禁止の終助詞

例 授業中にしゃべる<sup>な</sup>。

でも

◆ 「で」＋「も」のパターン

\* 「も」を取り除いても意味的に通る。「でも」の「で」の識別は、「で」の識別と同じ方法でやる。

① 形容動詞の連用形の活用語尾「で」＋副助詞「も」

例 彼はそれほど活発<sup>で</sup>でもない。(活発でない)

② 断定の助動詞「だ」の連用形「で」＋副助詞「も」

例 それは僕の辞書<sup>でも</sup>であり、弟の辞書<sup>でもある</sup>。

(僕の辞書であり、弟の辞書である)

③ 格助詞「で」＋副助詞「も」

例 自転車<sup>でも</sup>通学できる。(自転車でも通学できる)

例 家<sup>でも</sup>勉強する。(家で勉強する)

④ 接続助詞「て」が濁ったもの＋副助詞「も」

例 読んで<sup>ても</sup>いないのに、わからないと言う。(読んでいないのに)

◆ 「でも」のパターン

⑤ 副助詞「でも」

例 犬<sup>でも</sup>、恩は知っている。(類推「極端な例を挙げて、他の場合を推し量らせる意味を表す」)

「でも」の識別は最も複雑です。まず、「で」と「も」に分かれるか分らないかを考えましょう。



**確認問題**

例 犬の散歩にでも行こう。

(だいたい)の事柄(一つの例として、軽い気持ちを表す)

⑥ 接続助詞「ても」が濁ったもの

例 何回読んでもわからない。

① 次のそれぞれの文の——線部「ある」の文法的説明として最も適切なものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 近所に公園がある。
- (2) あれが私の家である。
- (3) 説得力のある言葉。
- (4) ある人に忠告される。

ア 動詞      イ 補助動詞      ウ 連体詞

(1)
(2)
(3)
(4)

② 次のそれぞれの文の——線部「ない」の文法的説明として最も適切なものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) せつない気持ちになる。
- (2) 今日はあまり寒くない。
- (3) 数学の問題ができない。
- (4) 野菜がないので買いに行く。

ア 打ち消しの助動詞      イ 形容詞  
ウ 形容詞の一部      エ 補助形容詞

(1)
(2)
(3)
(4)

③ 次のそれぞれの文の——線部「だ」の文法的説明として最も適切なものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 宿題はもう済んだ。
- (2) このケーキはおいしそうだ。
- (3) 川の水がきれいだ。
- (4) 遠くで人の声がするようだ。
- (5) 私はバスを乗り継いだ。
- (6) 何よりも大切なのは健康だ。

ア 形容動詞の終止形の活用語尾  
イ 断定の助動詞  
ウ 助動詞「そうだ」の終止形の一部  
エ 助動詞「ようだ」の終止形の一部  
オ 助動詞「た」が濁ったもの

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)



④ 次のそれぞれの文の——線部「で」の文法的説明として最も適切なものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) これは桜で、これは梅だ。
- (2) 父は不機嫌なようである。
- (3) 鳥が空を飛んでいる。
- (4) 雨が降りそうで降らない。
- (5) 赤いペンで線を引く。
- (6) 彼女は素直で、かわいい。

ア 形容動詞の連用形の活用語尾  
イ 格助詞  
ウ 助動詞「そうだ」の連用形の一部  
エ 助動詞「ようだ」の連用形の一部  
オ 断定の助動詞「だ」の連用形  
カ 接続助詞「て」が濁ったもの

(4)	(1)
(5)	(2)
(6)	(3)



5 次のそれぞれの文の——線部「に」の文法的説明として最も適切なものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 公式を正確に覚える。
- (2) 赤ちゃんは幸せそうに笑った。
- (3) 常に努力を怠らない。
- (4) 手が氷のように冷たくなる。
- (5) 本を借りに図書館へ行く。

- ア 形容動詞の連用形の活用語尾
- イ 格助詞
- ウ 助動詞「そうだ」の連用形の一部
- エ 助動詞「ようだ」の連用形の一部
- オ 副詞の一部

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)

6 次のそれぞれの文の——線部「な」の文法的説明として最も適切なものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) ならかな坂道が続く。
- (2) 前に会ったような気がする。
- (3) 春なのに寒い日が続く。
- (4) 泣きそうな顔をした子供。
- (5) いろんなケーキを食べる。
- (6) 授業中にしゃべるな。

- ア 形容動詞の連体形の活用語尾
- イ 連体詞の一部
- ウ 助動詞「そうだ」の連体形の一部
- エ 助動詞「ようだ」の連体形の一部
- オ 断定の助動詞「だ」の連体形
- カ 禁止の終助詞

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)

7 次のそれぞれの文の——線部「でも」の文法的説明として最も適切なものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) この色は水色でも青でもない。
- (2) 本でも読みながら待っている。
- (3) 手放して喜んでもらえない。
- (4) 中学一年生でもわかる問題だ。
- (5) 何回呼んでも返事がなかった。
- (6) この化粧品は海外でも話題の商品だ。
- (7) 運動部の彼は、たいして丈夫でもなかった。
- (8) その事故は新聞でも取り上げられた。
- (9) 薬を飲んでもしばらくは熱が下がらないだろう。
- (10) それほど豊かでもないが、幸せだ。

- ア 形容動詞の連用形の活用語尾「で」+副助詞「も」
- イ 断定の助動詞「だ」の連用形「で」+副助詞「も」
- ウ 格助詞「で」+副助詞「も」
- エ 接続助詞「て」が濁ったもの+副助詞「も」
- オ 類推を表す副助詞「でも」
- カ だいたいのこと柄を表す副助詞「でも」
- キ 接続助詞「ても」が濁ったもの

まず、「で」と「も」に分かれるかどうかを考えよう。そして、分かれるものについては、「で」で識別しよう！



(6)	(1)
(7)	(2)
(8)	(3)
(9)	(4)
(10)	(5)



練成問題

① 次のそれぞれの例文の——線部と同じ意味・用法のものを、それぞれのあとの文の——線部から一つずつ選び、記号で答えなさい。

□(1) 帰宅時間が遅くなることは両親に言ってある。

ア 兄の部屋にはテレビもある。

イ この町には花屋がたくさんある。

ウ 数学は私の最も苦手な教科である。

エ 小学生のある時期親によく反抗した。

オ 魅力ある会社に就職した。



□(2) この問題は難しくわからない。

ア 都会の空気はきたない。

イ 僕は勉強をしたくない。

ウ 早く行かないと遅刻する。

エ 家の近くにコンビニがない。

オ わからないことは何もない。

□(3) 我々が求めているのは平和だ。

ア 幼い頃、公園でよく遊んだ。

イ 兄は野球部のキャプテンだ。

ウ 今にも雨が降ってきそうだ。

エ 我が国は世界で最も平和だ。

オ ピンク色のバラはさきれいだ。




□(4) 父の跡を継いで、弁護士になった。

ア 彼は俳優で、女性に人気がある。

イ 風がやんで、海が穏やかになる。

ウ 教室は静かで、物音一つしない。

エ レストランで、彼女と食事をした。

オ 彼は誠実で、誰に対しても親切だ。

□(5) 雨で運動会を延期することになった。

ア 彼の予感はまさに的の中した。

イ 部屋をきれいにかたづけ

ウ 選挙に当選し、生徒会長になった。

エ 寝坊をして、遅刻しそうになった。

オ 原さんのように、まじめに勉強しよう。

□(6) 休日なので、店内は込み合っている。

ア 危ないから廊下を走るな。

イ 静かな夜の海岸を歩いた。

ウ おかしな噂を友達から聞いた。

エ まだ新品なのに、時計を壊した。

オ 弟は面白そうなゲームをやっている。

□(7) 必死に頼んでも、聞き入れてもらえなかった。

ア 次は観覧車でも乗りましようか。

イ 何度読んでも、この小説は感動する。

ウ 関東地方でも紅葉が始まったようだ。

エ この教室ではいくら騒いでも構わない。

オ 彼と彼女はそれほど親密でもないらしない。



② 次のそれぞれの組の——線部から、他と意味・用法が異なるものを一つずつ選び、記号で答えなさい。

□(1) ア 中学生らしい服装を心がける。

イ あの大きな建物が病院らしい。

ウ 電柱の後ろにしているのは探偵らしい。

エ 店の前に立っているのは男らしい。

□(2) ア 山また山を越えて列車が走る。

イ 明日また学校で会いましょう。

ウ 帰りもまた飛行機に乗る予定だ。

エ 帰ってきたばかりなのにまた出かけた。

□(3) ア 古い卵から食べるようにする。

イ 自信は努力から生まれるものだ。

ウ 北の国から雪の便りが届き始めた。

エ 姉は人柄がいいから誰からも好かれる。

□(4) ア 大雨のために運動会が延期となる。

イ これから友達と買い物にでかける。

ウ 秋になると山が赤や黄色に色づく。

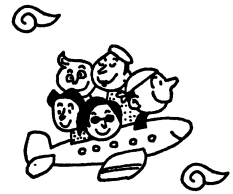
エ 父がよろしくと申しておりました。

□(5) ア 彼はよく忘れ物をする。

イ やっと母の機嫌がよくなった。

ウ 質がよくて、値段が安い商品。

エ 天気もよく、絶好のドライブ日和だ。

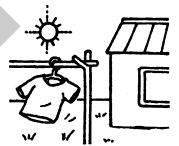


□(6) ア 天気がいいので、布団を干そう。

イ この靴は僕ので、その靴が君のだ。

ウ 一生懸命にやったので、悔いはない。

エ テストが近いので、皆勉強をしている。




□(7) ア 宿題の量が多いのに、おどろいた。

イ 授業が始まったのに、先生が来ない。

ウ ダイエットをしているのに、やせない。

エ 何度も注意したのに、態度が改まらない。

③ 次のそれぞれの組の——線部から、他と違う品詞のことを一つずつ選び、記号で答えなさい。

□(1) ア 彼は見事に難関を突破した。

イ 呼ばれたらすぐに返事をする事。

ウ 特に楽しかった思い出を作文に書く。

エ ただちに医者と呼ばないと手遅れになる。

□(2) ア 門の前に大きな犬がいる。

イ 大事な本をなくしてしまった。

ウ 先生からいろんなことを学んだ。

エ 友達がおかしな顔をして笑わせる。

□(3) ア 彼は最近遅刻しなくなった。

イ 今日はず日ほど寒くはない。

ウ 警察の様子を詳しく説明する。

エ おこづかいがなくて困った。

